

# キャリア形成の基礎・工学の基礎・数理科学と教育・その他連携科目の 教育目標とカリキュラムの編成方針

## 1. 教育目標

大阪工業大学は、開学以来の基本的な教育方針として、専門教育とその基礎教育の充実を図ると共に、技術者としてあるいは社会人として必要な教養を身に付けることを教育方針としてきた。

工学部は、この教育方針に沿った教育を行うために、一般教育科、総合人間学系教室および専門学科を設置している。

一般教育科（略してG科という）と総合人間学系教室（略してH教室）は、「キャリア形成の基礎」、「工学の基礎」、「数理科学と教育」、「共通科目」及び専門科目のなかの「専門基礎科目」を担当し、主として1～2年次の全学科の教育にあっている。さらに、3～4年次を対象とした高度な科目も担当している。これらの科目は技術者を目指すみなさんにとって非常に重要な役割を果たすものである。また、卒業研究を含めた専門教育ならびに大学院教育も一部担当している。

このように、G科ならびにH教室は専門学科とともに、強い連携のもとで4年間の教育を体系的に実施している。

大阪工業大学の教育においては、工学部および各学科で定めるディプロマ・ポリシー（卒業時に身に付けておくべき学力・知識）に基づいて、本学学生が、幅広い知識、柔軟な思考力、創造性等を踏まえ自ら課題を探究し、かつ解決を目指すことができる能力の育成に欠かせない科目を体系的に編成している。

したがって、学生のみなさんは、4年間の履修計画に基づき、学修を積み重ねることによって学力の定着が図れるようになっている。

## 2. カリキュラム編成方針

2014年度以降入学生を対象とする教育課程は、専門科目以外に「キャリア形成の基礎」、「工学の基礎」、「数理科学と教育」、「その他連携科目」で編成されている。その中で、「キャリア形成の基礎」（20単位）は人文社会科学（10単位）、外国語（8単位）、体育（2単位）の諸科目により構成されており、「工学の基礎」（26単位）は、自然科学、工学マネジメント、淀川学、OITリソースの諸科目により構成されている。（ ）内は卒業要件単位数を示す。2014年度教育課程においては、初年次に新たにOITリソースとして、PBL科目[問題（課題）解決型学習]を配置し、グループワークにより、定められた課題に対する解決策を導き出す科目を配当しているところに大きな特徴がある。

なお、ここで示した単位数は、共通科目について卒業に必要な最低限の単位数を述べたものであり、教育目標に示したように、技術者としてあるいは社会人として必要な教養を身に付けるためには様々な分野の科目を数多く修得することが望ましい。